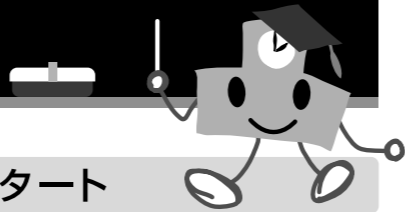


中学校の事例 豊平区 生徒会サミット

豊平区の学校が互いに協力。共同回収で「車いすプレゼント」という目標を達成。

リングブルの回収量目標達成のため、豊平区の小・中学校が協力。町内会や企業など活動の輪は広がり地域全体の環境意識が向上。



はじめに 各校3名が参加する意見交換からスタート

豊平区では「生徒会サミット」(TSS)があり、リングブル共同回収活動を行っている。

生徒会サミットとは、区内市立中学校の生徒会活動の情報交換と交流を目的として、豊平区PTA連合会と区内の市立中学校の主催・サポートを得て行われている活動である。各3名の生徒会役員が参加し、コミュニケーション能力の向上と、まちづくりへの参加意識を育んでいる。



各校3名が参加し顔をあわせる

内容 協力しあうことで大きな目標を達成

リングブルを回収しアルミとして換金、車いすを贈ることで、資源を大切にすることを育むという社会貢献活動は、江別のリングブル再生ネットワーク(略称=ブルネット:江別市野幌)によって行われている。TSS参加校の多くが、生徒会活動として以前からリングブル回収を行っていたが、車いすに交換できる量までなかなか到達しないという悩みがあったため、平成18年のTSSで共同回収が提案され、平成20年より共同回収がスタートした。当初7校で始まった共同回収は、2年目には8校となり、その後、報道で知った小学校2校の参加を得て10校となった。地域の町内会や、病院などの職場団体からも協力を得、活動の輪が広がっている。

現在、この活動は「札幌市豊平区小中学校」という団体名で登録されている。各学校でリングブルを集めて専用の麻袋に入れ、1袋貯まったところでブルネットに送付し、「札幌市豊平区小中学校」として回収量を合算している。



3つのグループに分かれ、意見交流

成果 3台の車いすに交換 まもなく4台目も

1回に720kgのリングブルで自走式・アルミモジュールタイプの車いす1台に交換できる。第1回の贈呈は、平成21年2月、介護老人保健施設へ。第2回は、平成22年1月、特定非営利活動法人へ贈呈。第3回は平成23年1月に、介護老人保健施設に贈呈した。

現在、10校分の残量が770kgとなり、4台目の交換可能量に到達し活動に参加している生徒たちの意識も高まっている。

環境行動は身近なところからそれぞれが始めることが重要だが、互いに協力することで大きな目標に近づく。TSSによるリングブル回収では、個別の学校だけでは車いすに交換できる量まで到達するのに時間がかかり、なかなか成果を実感することができなかったが、各校が協力しあうことで、「車いすプレゼント」という目標を達成することができた。各校の生徒・児童にとっても達成感・やりがいにつながっている事例である。



プレゼントした車いすが喜ばれている実感

今後 協力・達成の実例がやりがいに

TSSの意見交流会では、それぞれの学校での環境についての取組が報告されており、学校間において、よい刺激となっている。互いによいところを学び、改善点についてのアドバイスを得、地域と一体となった取組がさらに発展的に広がっていくことが期待できると考えている。



グループの代表が意見のまとめを発表

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

TSSでは、「車いすプレゼント」以外にも、月寒公園の再整備計画に向け、「夢の月寒公園について」というテーマで、自然、設備と機能、イベントやボランティア活動などについて、活発に意見交換する形で街づくりに参加しています。安全性を重視した遊具の設置や公園にいる生物のガイド作成、禁煙や分煙のルール制定など、全ての人にとって利用しやすい公園になればとの思いで、具体的な意見を出しており、いくつかが採用、または検討されています。